

みんなで支える里山整備事業【防災・減災】

事業の概要

1 事業の趣旨

【基本方針活用事業より】

- ・地球温暖化の影響等で局地的な豪雨等が増大する中、各地で頻発している土砂災害や流木被害等を防ぐための森林の整備は、人命、財産を守ることを使命とする本県にとって喫緊の課題。
- ・そのため、未整備の里山のうち、航空レーザー測量等の科学的知見を活用して、①山腹崩壊の危険度、②保全対象からの距離、③森林管理の状態の3つの視点から危険性が高い箇所を絞り込み間伐を実施。
- ・間伐材の搬出・利用が可能な場所においては、路網整備を含めて、当初から搬出を前提とした、間伐作業と木材の搬出作業を同時・一体的に行う搬出間伐を実施し、豪雨時に間伐材が流出する懸念を無くすることが必要。
- ・また、台風災害時に倒木による停電や通行止めが発生しており、安全・安心な県民生活のためにはこれらの倒木を未然に防ぐ取組が急務。

2 目指す成果・成果目標

【基本方針活用事業より】

- ・防災・減災のために必要不可欠な里山の間伐 概ね 4,300ha 程度/5年間
- ・安全が確保される主要なライフライン等 概ね 55箇所程度/5年間

【取組により期待される効果】

- ・間伐材の搬出量の増加
- ・森林整備の実施を通じた防災意識の向上(里山整備実施者の増加)

3 事業内容

事業内容	事業主体	補助率
・間伐（搬出間伐を含む） ・路網整備	市町村、森林組合、NPO法人、 森林所有者の団体等	9/10
・ライフライン等保全対策（危険木の伐採）	市町村	9/10

調査箇所の概要

1 事業箇所

高山村大字牧字藤沢

2 事業主体

高山村

（施工：長野森林組合）

3 森林所有者

牧区 他14名

4 施業内容

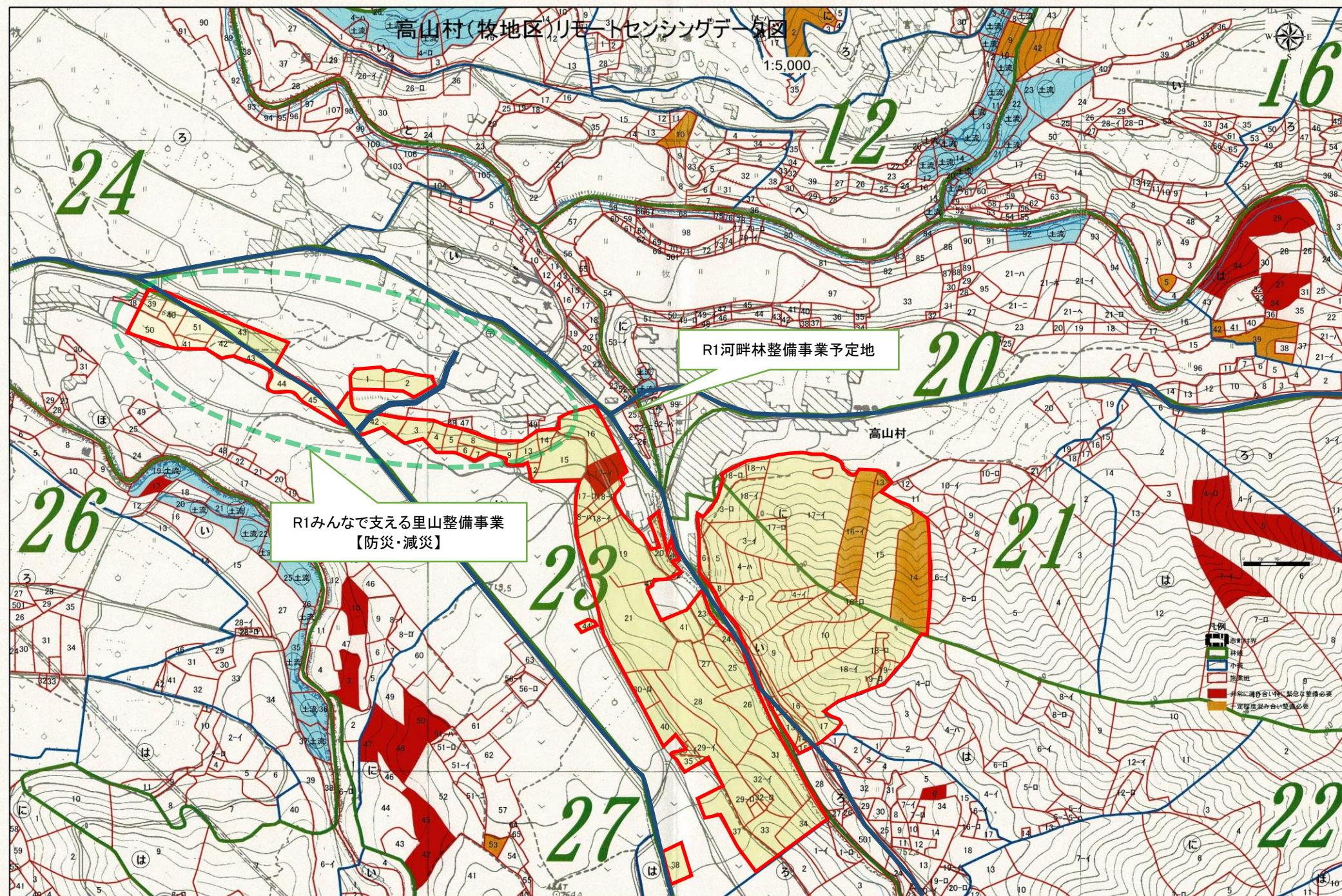
搬出間伐 2.67ha

（スギ、カラマツ、広葉樹）

5 事業実施期間

令和元年6月10日～8月10日

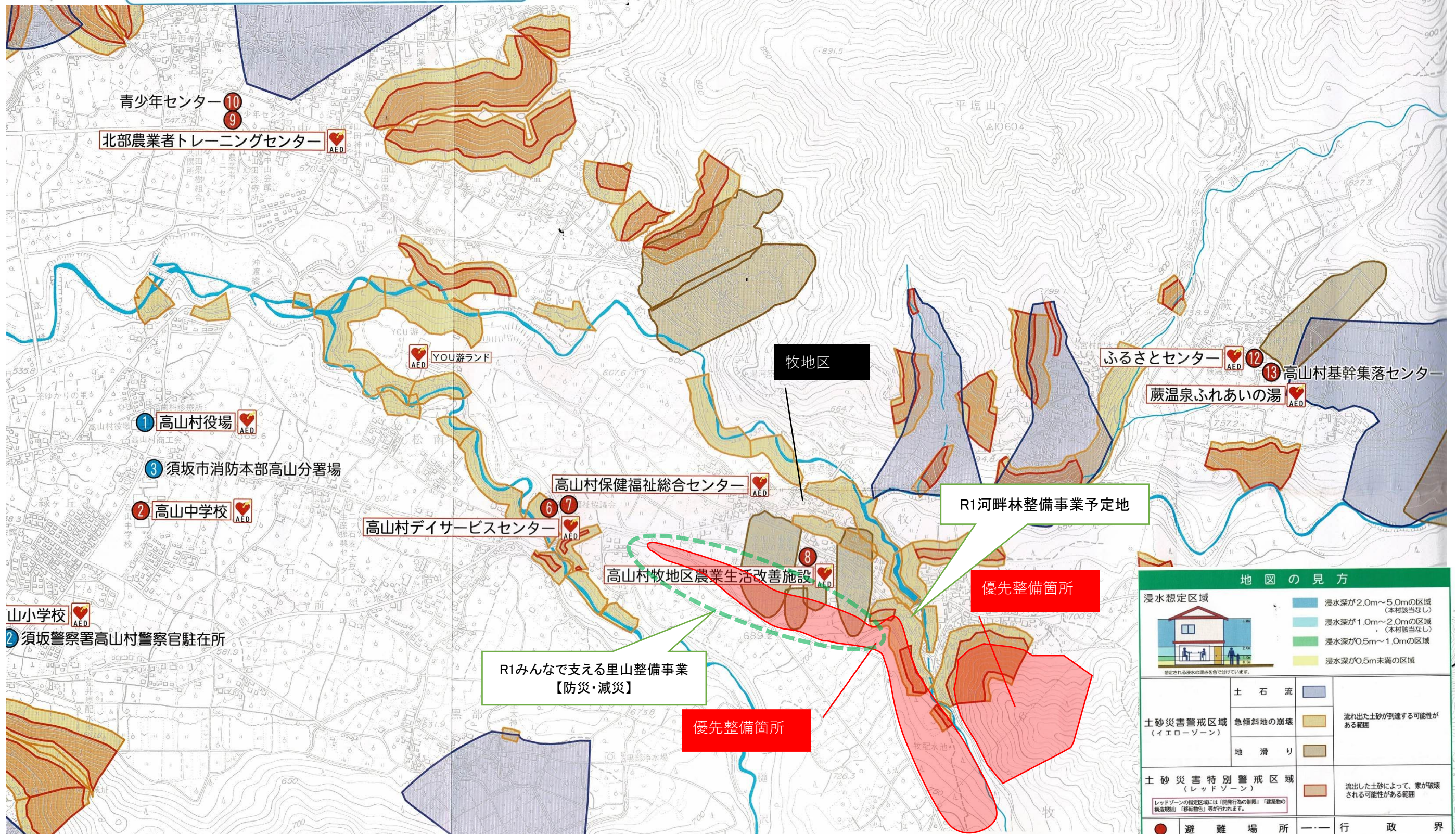




高山村災害ハザードマップ

浸水想定区域及び土砂災害危険区域図

0 500 1,000m
1:15,000



地図の見方

浸水想定区域		浸水深が2.0m～5.0mの区域 (本村該当なし)
		浸水深が1.0m～2.0mの区域 (本村該当なし)
		浸水深が0.5m～1.0mの区域
		浸水深が0.5m未満の区域
土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)	土石流	流出した土砂が到達する可能性 がある範囲
	急傾斜地の崩壊	
	地滑り	
土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)		流出した土砂によって、家が破壊 される可能性がある範囲
レッドゾーンの指定区域には「開発行為の制限」「建築物の 構造規制」「移転勧告」等が行われます。		
●	避難場所	行政界
●	防災関係機関	AED設置場所

浸水区域は雨の降り方や浸水の状況によっても異なりますので、避難所の周囲の状況をよく確認して避難しましょう。
また、防災関係機関からの情報にも十分注意してください。